

その 99 今回の記事は 1995 年の南北アメリカです 1995 年 (3)

「あの人は今 (第 24 回)」 JG3STV 服部匡史氏

JA3AER 荒川泰蔵

■ 今回の記事は 1995 年の南北アメリカです

今回は 1995 年の第 3 回目で、南北アメリカで運用した方々の紹介です。尚、今月の「あの人は今 (第 24 回)」は、JG3STV 服部匡史氏の紹介です。

■ 1995 年 (カナダ NX1L/VE3)

JH1VRQ 秋山直樹氏は、米国 FCC の免許でカナダの Niagara Falls, Ontario から NX1L/VE3 で、14MHz の CW で QRV し、JA の 3 局を含む 6 局と QSO したと、アンケートで知らせてくれた。「アメリカ FCC 発行のアマチュア無線免許は、自動的にカナダで有効。カナダの郵政当局の承認はいらない。操作範囲は FCC 免許で定められたとおり。1982 ~ 1984 年には、N1CIX/VE1 と、N1CIX/VE2 の運用も行った。(1995 年 11 月記)」

■ 1995 年 (米国 WH2H, W4/JK2VOC, AJ7/JK2VOC)

J11CJJ 中野久永氏は、米陸軍上級曹長学校へ派遣留学した機会に FCC の免許を取得し、テキサス州・エルパソ市から WH2H で運用したとアンケートを寄せてくれた (写真 1 ~ 3)。「TS-50(100W) + R5 で QRV、その後 R7 に変更しました。スタンダード C108A をポケットに入れ、市内のリピーターを使用して、ローカル局と QSO。毎週日曜日の午前 9 時より、28.440MHz で、テンテンネットに参加。水曜日の夜は、144、430 のロールコールにチェックイン。土曜日の午後は DX に耳を傾けて、CW、SSB で HF に QRV。7 月にはカリブ海へクルージングに行きました。C108A でローカルと QSO すると、ベトナム戦争時代、立川、横田基地に行ったことのあるオペレーターが多かった。エルパソ市は、軍関係者が多く、ハムの平均年齢は 50 歳位に思えました。日本人に対する思いは大変良かった。また、RACE(災害時におけるアマチュア無線局の運用)についても、かなり確立していた。今回、米軍官舎に家族で住んでいましたが、無線局を開局するには、米軍当局の許可が事前に必要でした。しかし、TVI 等が生じた場合は、当局に通知すれば、専門家が調べて全て解決してくれるとの事でした。さすがですね。実際には TVI 等はありませんでした。私の場合は公務の為にパスポートも公用でした。また、米軍の ID カードを取得しましたので、米軍と同様の特権が与えられました。地域のハムクラブとの交流をはかり、フィールドデーコンテストへの参加や、ARRL の VEC として試験員を務めました。クラブハウスも大変立派なもので、生活も十分できる位でした。800 万円の家 + プール + 家具一式が買えます。日本では 1 億円位するものですよ。サンシティアマチュア無線クラブ・K5WPH は、30 年間も QRV している大変古いクラブで、組織が確立しているクラブです。最後に、私は、日本人ハムオペレーターとして、テキサス州・エルパソ市、フォート・ブリス米軍基地内で運用できたのも、近くにいた WF4P ローランド氏をはじめとして、多数の米軍関係者の協力があったからだと思います。来年も海外、特に米軍への出張等がありますので、CQ JA で頑張ります。(1995 年 11 月記)」

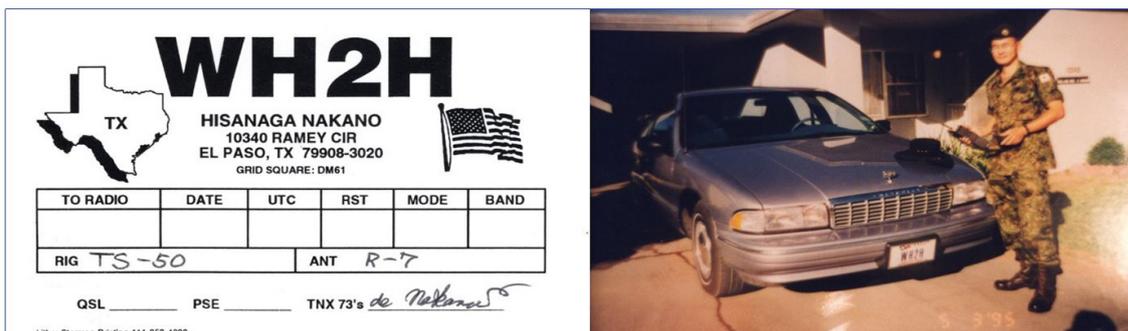


写真 1. (左)WH2H 中野久永氏の QSL カードと、
(右)WH2H のライセンスプレートを付けた車の前で、HT を手にする WH2H 中野久永氏。

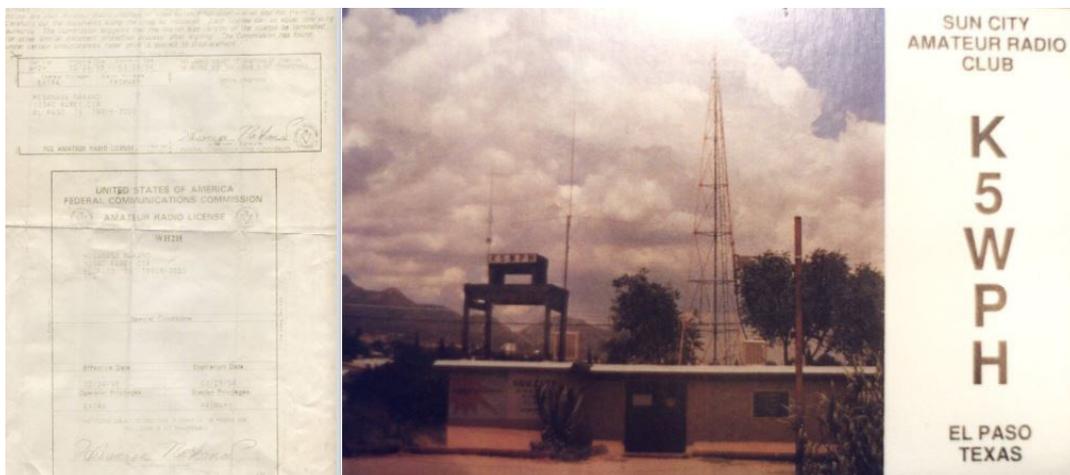


写真2. (左)WH2H 中野久永氏の免許状 (感熱紙コピーが退色している)。
(右) サンシティアマチュア無線クラブ K5WPH の QSL カード。



写真3. WH2H 中野久永氏の米陸軍上級曹長学校の留学を伝える新聞記事。

JK2VOC 福田佳広氏は、JR3NZC 松本肇氏との米国旅行で運用した経験を、アンケートで知らせてくれた(写真4及び5)。「1995年3月に、JR3NZC 松本肇氏と一緒にアメリカのコンテスト局を訪問する目的で渡米し、東海岸～西海岸を8日間かけて旅行しました。最初の訪問地ジョージア州でWX4G、K4PI、K4JPD、K4KGを訪問しました。WX4GのシャックからW4/JK2VOCとW4/JR3NZCでQRVし2人で約30QSOしました。その後メリーランド州に移動しK3ZO、W3LPLを訪問しましたが、こちらでの運用はありませんでした。最後の訪問地ワシントン州のW7RMからはWPXSSBコンテストにAJ7/JK2VOCとAJ7/JR3NZCで参加し、私が1,800QSO、松本氏が1,000QSOを行いました。この当時はアメリカと日本間で相互運用協定が結ばれていましたが、レシプロ免許を事前に取得する必要があり、出発日が迫っていた事もあり、FCCへ申請する際に急いで免許を発行して貰うように手紙と多めのIRCを同封しました。出発までに免許が到着して無事QRVすることができました。(2020年8月記)」



写真4. (左) ホワイトハウスを背景に、W4/JK2VOC 福田佳広氏と、W4/JR3NZC 松本肇氏。
(右)W4/JK2VOC を運用する福田佳広氏。



写真5. (左)AJ7/JK2VOC 福田佳広氏の QSL カードと、(右) アンテナファームを背景に、W7RM と AJ7/JK2VOC 福田佳広氏。

■ 1995 年 (ケイマン諸島 ZF2SF/8)

,JH6RTO 福島誠治氏はケイマン諸島の免許を得て、Little Cayman から ZF2SF/8 で運用したとアンケートを寄せてくれた(写真6)。「極最近、CQ 誌の“日本人による海外運用の記録”にも掲載された JH1VRQ 秋山直樹氏の運用直後ですから、少し違うところということで、ZF8 から運用しました。免許は、US 免許からは確実に発行されます。有人島が3つあり、Grand Cayman = ZF1、Little Cayman = ZF8、Cayman Brac = ZF9、常置場所のない外国人 = ZF2 のようです。ZF8AA の Sefton's Cottage をお借りして、宿泊と運用をしましたが、現在の所有者は代っています。リグ、アンテナは古いですが、ほぼ一式あります。1.8 ~ 7MHz がスローパー、14 ~ 28MHz(WARC を含む) が 4ele ビームです。尚、ZF1 ⇄ ZF8 は 20 人乗りの小型機が毎日 2 便飛んでいます。呼ぶ局の多いバンドを中心に出了。結果は 10, 18MHz で非常に受けが良く、3.5MHz の CW でさえも、往々にして“僕も前に行ったことがある。ZF2・・・だったよ”と長話をする一方、EU が首を長くして待っていました。念のため数本のワイヤーアンテナを持参しましたが、10MHz の Zeppelin は大活躍でした。10MHz ではかろうじて JA の 2 局と QSO できました。(1995 年 10 月記)」



写真6. (左)ZF2SF/8(JH6RTO) 福島誠治氏と ZF2AH, Joe さん。
(右)ZF2AH, Joe さんご夫妻の歓迎会の集合写真(2017年9月大阪京橋にて)。

■ 1995 年 (ジャマイカ JR7QKH/6Y5)

,JR7QKH 佐藤学氏はジャマイカの運用許可を得て、ジャマイカの Ocho Rios から JR7QKH/6Y5 で運用したと、アンケートを寄せてくれた(写真7及び8)。「1995年3月7日から1週間、ジャマイカに滞在し QRV してきました。ライセンスは JA の免許で、現地の PTD(Post and Telegraphs Department) に申請しました。6Y5IC, Wendy さんの協力を得て、約3ヶ月で許可になりました。申請領は無料です。あまり QRV する時間がなく、14MHz の SSB で、W のイーストコーストを中心に、約 130QSO でした。コンディションが悪く残念ながら JA とは QSO できませんでした。設備は TS-50S と、ホテルのベランダに設置した D.P でした。(1995 年 8 月記)」

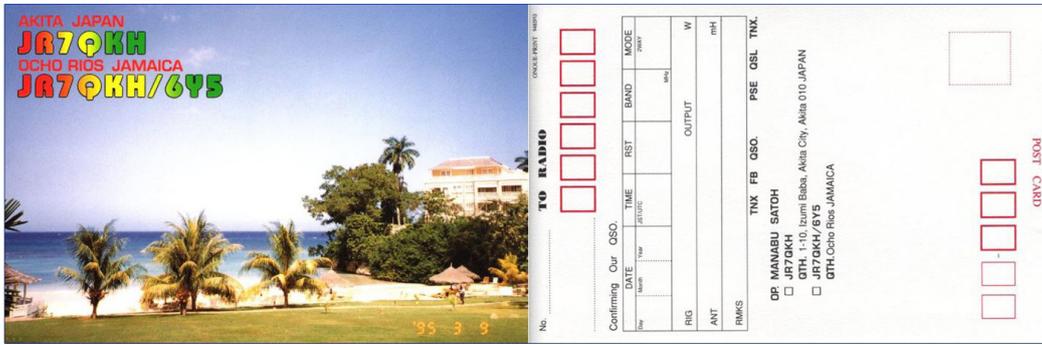


写真7. JR7QKH/6Y5 佐藤学氏のQSLカード表と裏。



JAMAICA
FORM D

THE RADIO AND TELEGRAPH CONTROL ACT, 1972
(Act 20 of 1972)

ALIEN AMATEUR RADIO STATION PERMIT

(Issued by the Postmaster General Pursuant
to Regulation 32 of the Radio and Telegraph
Control (Amateur Radio Service) Regulations,
1974, hereinafter referred to as "the Regulations")

Rt. MANABU SATO

of **1-10 IZUMI BABA AKITA CITY**

AKITA 010 JAPAN

a national of **JAPAN**

being the holder of an Amateur Radio Station Licence No. **1A Q100055**

issued by **MINISTRY OF POST & TELECOMMUNICATIONS, JAPAN**

is hereby authorized to operate the said station in Jamaica during
the period **MARCH 7, 1995**

to **APRIL 6, 1995**

at **SANS SOUCI HOTEL, ST. MARY**

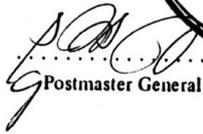
.....

and at any other place in Jamaica for a period not to exceed 48 hours or in accordance with an approved itinerary or as provided for in regulations 11 and 29. This permit is granted in accordance with the Radio and Telegraph Control Act, 1972 and the Regulations made thereunder and may be withdrawn at any time, should the licensee fail to observe any of the conditions attached to the license issued to him by the licensing country of any of the local rules and regulations applicable to Jamaican amateur radio operators. In case of conflict of Jamaican regulation shall prevail for operation while in Jamaica. The licensee is also required to observe the Radio Regulations in force under the International Telecommunication Convention.

Call sign **JR7QKH/6Y5**

Date of issue **8TH FEBRUARY 1995**

Permit No. **TA1/624/95**



Postmaster General



POST & TELEGRAPHS DEPARTMENT
8 FEB 1995
JAMAICA

写真8. JR7QKH/6Y5 佐藤学氏の免許状。

■ 1995年(タークス・カイコス諸島 VP5/JA7XBG, VP5/JH7MQD)

JA7XBG 坂部哲也氏は、タークス・カイコス諸島で VP5/JA7XBG の免許を得て、Providenciales Is. で運用したと、CQ ham radio 編集部経由でアンケートを寄せてくれた(写真9~11)。「ライセンスの取得方法: 現地のアマチュア局である VP5JM (Mrs. Jody Millspaugh) に事前に日本のライセンスの英文証明を送付し、取得してもらった。所定の申請書も準備されているが、これも彼女が作成してくれた。日本のライセンスをベースに1年間(1/1 - 12/31)のライセンスが問題なく入手できるが、担当官庁の事務処理に時間を要するため、現地のアマチュア局に依頼して、あらかじめライセンスを入手しておく事をおすすめする。郵送による申請も可能であろうが、処理時間の問題があり危険度が高い。コールサインは VP5/ ホームコールとなり、以前許可されていた VP5Vxx (V は Visitor の V) は、現在は許可されない。コンテスト/特殊イベント等の目的では VP5x のコールサインが短期間なら許可される。**入国時の問題:** 今回はレンタルシャックからの運用であったため、機材の持ち込みが少ないこともあって、入国時のトラブルは無かった。念のために、事前に許可されたライセンスを携帯する方がベター。レンタルシャック: 今回は、VP5JM が経営する**レンタルシャック "Hamlet"**からの運用でした。カリブ諸国には、多くのレンタルシャックがあるが、機材の持ち込みが不要で充実した設備で運用できるメリットがある。また、Hamlet は完全な一戸建てであるため、気がねなく運用可能である。ちなみに当地ではケーブル TV が普及しており TVI の心配はない。また、Hamlet には FB なキッチンも完備しており、日本食を料理できる点も見逃せない。**現地のアマチュア局:** 現地には数名のアマチュア局がいるが、海外 QSO を行なう局は VP5JM 以外皆無。U.S.A. の局を中心に年に数回のゲストオペが実施されており、これらの運用の依存度が高い。現地では、現在アマチュア局に対する詳細のルールを制定中。現在は International のルールに準拠する様、ライセンスに明記されている。今後は、VP5JM らが中心となって若いアマチュアを育成してくれると思われる。いずれは現地人によるアクティブな QRV が見込まれると信じたい。**現地の様子:** 当地はまだ観光地化されておらず、自然が多く残されており、野性のイグアナを見る事もできる。電気の供給は問題なく、滞在中の停電はなかったが、上水道は設備が完備しておらず、各家の地下に貯水用のスペースを設け雨水を溜めて使用する、いわば自給自足の状態。我々の滞在中は全く降らなかったため、かなり危険な状態であったが、何とか貯水で生活できた。無論、この水は飲料水にはならず、飲料用は別途購入が必要。我々が滞在した Providenciales 島 (通称 Provo) にはダウンタウンの様な地域は無く、レストランの数も少ないため外食やショッピングのためには、レンタカー等が必要と思われる。我々は VP5JM の好意に甘え、色々な所へ案内してもらったためレンタカーは不要であった。なお、タクシーは極めて少ない模様。**その他:** 今回は、VP5/JH7MQD 小林氏と共に行動した。運用は同一場所から交互に実施。(1995年11月記)』

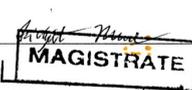
TURKS AND CAICOS ISLANDS JUDICIAL DEPARTMENT AMATEUR RADIO LICENCING		
Permit for a Non-Resident Amateur radio licensee to operate within the Turks and Caicos Islands.		
Allocated Call Sign <u>VP5/JA7XBG</u>		
NAME	<u>SAKABE</u>	Initial <u>TETUYA</u>
Home Address	<u>3-9-4 KOSHIBAKAWA, YAMAGATA 990, JAPAN</u>	
Address in the Islands	<u>"THE HAMLET", PROVIDENCIALES</u>	
No. of Licence	<u>096</u>	of 19 <u>95</u>
<u>JAPAN</u> Licencing Country	<u>JA7XBG</u> Home Call Sign	
Operation under this permit must be in accordance with the current International Radio Regulations.		
Permit Granted.		
From <u>JAN 1, 95</u>	To <u>DEC 31, 95</u>	Fee: \$ <u>11.00</u>
 MAGISTRATE		

写真9. VP5/JA7XBG 坂部哲也氏の免許状。



写真 10. (左) VP5/JA7XBG を運用する坂部哲也氏と、
(右) 夕日を背景に、VP5JM, Jodyさんと VP5/JA7XBG 坂部哲也氏。

写真 11. VP5/JA7XBG 坂部哲也氏の QSL カード表と裏。

JH7MQD 小林昭氏も、タークス・カイコス諸島で VP5/JH7MQD の免許を得て、Providenciales Is. で運用したと、CQ ham radio 編集部経由でアンケートを寄せてくれた(写真 12 及び 13)。「コンディションは非常に悪く、14MHz 以上では 18MHz で 2 局 JA とできただけで、ほとんど JA は聞こえませんでした。ローバンドは 10:00Z を中心に ± 30 分位が JA と開けました。後で QSL の回収で知りましたが、西日本 (JA2 - 6) の局は時々ロングパスで QSO していたようです。特に 3.8MHz の JA - VP5 はノイズが多く苦労しました。7MHz, CW で約 150 局、3.8MHz で約 150 局の JA と QSO できました。詳しくは JA7XBG 局がレポートしていると思います。(1995 年 11 月記)」

写真 12. VP5/JH7MQD 小林昭氏の免許状。

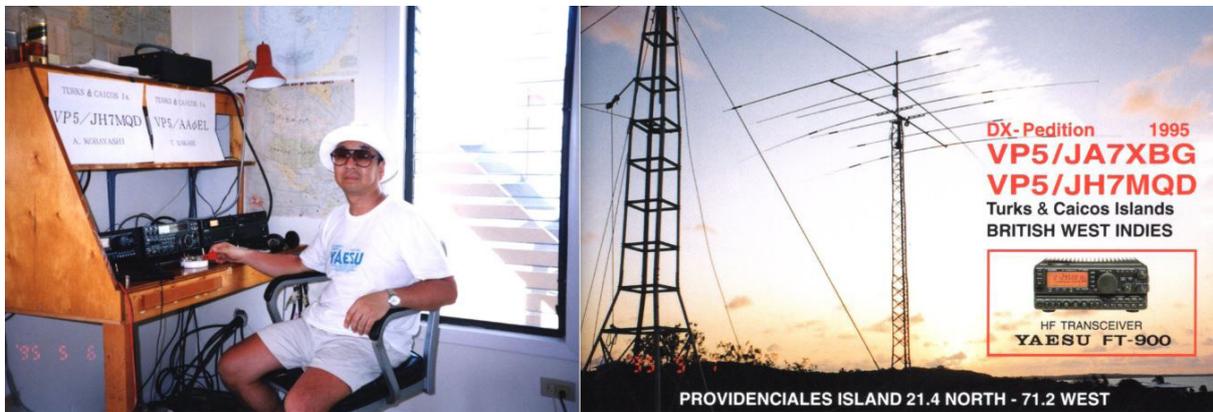


写真 13. (左) VP5/JH7MQD を運用する小林昭氏と、(右) その QSL カード。

■ 1995 年 (ペルー OA4DBP)

JR2CHL 橋本益夫氏は、チリで受験し OA4DBP の免許を受けて運用中と、免許状のコピーを添えて手紙で知らせてくれた(写真 14)。「CQ 誌の記事はよく拝見させて頂いており、私もいつか海外で電波を出したいと思っておりましたが、なんせ日本ではほんの 2 年位の無線の体験しかなく、免許も電信級までで終わっており、その後 20 年以上電鍵にも触れた事がなく、偶に日本へ帰った時ホコリをかぶったシャックよりオンエアをしていたぐらいです。その間、仕事の関係で南米各国を行ったり来たりしてはいましたが、やっと 4 年前よりペルーに定住し、現地の試験を受けノビス(初級)より始め、現在はインテルメーディア(中級)です。一時 OA4DBO で出ておりましたが、当局よりコールサインの変更を指示され、現在では一字違いの OA4DBP で 3.8, 7, 14, 21MHz 等に出ております。(1995 年 12 月記)」

**MINISTERIO DE TRANSPORTES, COMUNICACIONES
VIVIENDA Y CONSTRUCCION
DIRECCION GENERAL DE TELECOMUNICACIONES**

LICENCIA DE INSTALACION Y OPERACION

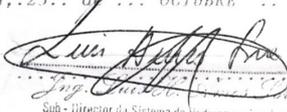
ESTACION DE RADIOAFICIONADO LICENCIA NO 4696..

Por la presente:
 Don MASUO HASHIMOTO
 de nacionalidad JAPONESA
 con Libreta Militar NO.....
 Libreta Electoral NO
 Const de Extranjeria NO..... N-78285
 domiciliado en .. JR. PERCY GIBSON NO 307 - LINCE - ..
 LIMA

está autorizado de acuerdo con la Resolución Directoral N00955-95-MTC/15 de la DIRECCION DE ADMINISTRACION DE FRECUENCIAS, expedida el 17 de AGO. de 1995.; para **INSTALAR Y OPERAR** una estación de Radioaficionado con las siguientes características:

Señal Distintiva: ... "OA4-DBP" ... Categoría: INTERMEDIA
 Ubicación de la Estación: .. JR. PERCY GIBSON NO 307 - LINCE - LIMA

Lima, .23.. de ... OCTUBRE .. de 1995


 Sub - Director de Sistema de Radiocomunicaciones
 Dirección de Administración de Frecuencia

La autorización que motiva la expedición de la presente, tiene vigencia por un plazo de cinco (05) años.
 La presente licencia vence el 31 de diciembre de cada año, debiendo ser renovada durante los meses de Enero a Marzo del año siguiente.
NOTA.- Esta licencia no es válida si no va acompañada del CERTIFICADO DE VALIDEZ, correspondiente al año en curso.

写真 14. OA4DBP 橋本益夫氏の免許状。

「あの人は今(第24回)」JG3STV 服部匡史氏

仕事の関係で奥様と共にニューヨークに駐在された **JG3STV 服部匡史氏**は、N2CAO の免許を得てアクティブに運用され、国連本部の 4U1UN も奥様 (JM3KHY/W2) と共に何度もゲスト運用されました。筆者 (JA3AER) が米国から帰国することになり多忙を極めた 1987 年から、英国に赴任した 1991 年までの 5 年間、CQ 誌に連載していた「JANET News」の編集を引き受けて下さいました。また、お父様の故 JM3CRW 服部利雄氏も、奥様と一緒にニューヨークに来られて JANET クラブのメンバーと交流されたご経験から、服部匡史氏の編集をサポートして下さいました。その服部匡史氏の米国での N2CAO の運用については、(その 16)2014 年 7 月号に、国連本部での 4U37UN の運用については、(その 20)2014 年 11 月号に、そして、奥様 JM3KHY/W2 服部澄子氏の 4U1UN の運用については、(その 29)2015 年 8 月号で紹介させて頂きましたが、その服部匡史氏から近況をお知らせ頂きましたので紹介させて頂きます (写真 15 ~ 17)。

**＝JANET NEWSの
エディター交代に当たって＝**
N2ATT/JA3AER 荒川泰蔵
過去 6 年間、JANET クラブの一員として、当コラムを担当して参りましたが、都合により来月号から N2CAO/JG3STV 服部匡史さんに交代していただくことにいたしました。
『N2ATT のニューヨーク便り』から分離独立させ、『JANET NEWS』のタイトルで書き始めたのは 1980 年 12 月号が最初で、今回で通算 73 回になりますが、その間、JANET クラブの発展とともに、クラブの活動やメンバーの近況などを伝え、また時には各国のハム事情を紹介したり意見を述べるなど、クラブの機関紙としての役割りと、広報としての役割りを果たしてきたと自負しております
これに対して、一昨年 (1985 年) JANET クラブから感謝の盾が贈られ

来月号から当コラムを担当される N2CAO 服部さんは、ニューヨークにお住いで、XYL 澄子さん (JM3KHY/W2) とともにアクティブなハムであり、先般 JANET クラブの機関紙『JANET NEWS』第 5 号の編集を経験されましたので、FB 誌面が期待できると信じます。しかし、これが継続できるか否かは、メンバーをはじめ皆さんのサポートいかんにかかっています。担当を交代するに当たり、皆さんにお礼を申し上げますとともに、従来にも増して、ローカルのニュースや近況などを服部さん宛お送りくださいますようお願い申し上げます
なお、服部さんの QTH は次のとおりです
MR. MASAFUMI HATTORI,
N2CAO
ROOM 8B, 1674 BROADWAY,
NEW YORK, NY 10019, U.S.A.
(Nov. 1, 1986 記)



▲ N2ATF 小林さんのシャックにて、左から N2CAO, N2ATF HB9RS.



▲ N2ATT 荒川さんおつかれさまでした。

**JANET NEWS エディター
交替について JG3STV/N2CAO**

当コラムを担当させていただいてから丸 5 年が経ちました。たくさんの方々の協力と励みを受けて、なんとか今まで続けさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです
2 月号からは、以前のエディターで、このコラムをはじめられた JA3AER/N2ATT 荒川 OM に編集をお願いすることになりましたので、当コラムへの投稿ならびに連絡は現在英国在住の荒川 OM までお願いいたします
なお、最後にこの 5 年間縁の下の方たちとなって、仕事で手がまわらない小生の代りに、メンバーとの連絡、原稿の編集、清書にそして取材にまで尽力してくれた父親の JM3CRW を、改めて皆さんに紹介させていただきます
アマチュア無線、とりわけ JANET に対する彼の情熱は、76 歳という彼の年齢を考えに入れても並々ならぬものがあります。小生も彼も今後は JANET NEWS への投稿

者の一人として、このコラムを盛りあげていこうと話しています。皆様、ありがとうございます。
荒川 OM の住所
Mr. Taizo Arakawa
"ROYSTON" BENNETTS LANE
HAWARDEN DEESIDE CLWYD,
CH5 3HG, U.K.



写真 15. (左)CQ 誌 1987 年 1 月号、N2ATT から N2CAO への JANET News 欄エディター引継ぎ記事。(右) CQ 誌 1992 年 1 月号、N2CAO から N2ATT への JANET News 欄エディター引継ぎ記事。

「1978 年 2 月に初めて米国へ赴任。それまでシンガポールを拠点に香港や東南アジア諸国、そしてサウジやクウェートなどの中東の国々を廻って仕事をしてきた私でしたが、ようやく願いが叶っての NY 勤務でした。“海外で仕事をしたい”という小さい頃からの願いのひとつの集大成として、勇躍 NY へ乗り込んだものでしたが、実はもう一つ、ラジオ少年だった自分の夢、アマチュア無線発祥の地で、たとえ SWL でも良い、なんとか活動してみたいというひそかな期待がありました。まことに幸せなめぐり合わせで、創立間もない JANET CLUB と出会い、しかも OM 諸氏のご協力で N2CAO のコールを取得して、ハッピーなスタートを切ることができました。さらに XYL の JM3KHY/W2 と共に Manhattan Radio Club(MAARC) のメンバーとして、レピーター設備の取材、NBC スタジオでのミーティングやポットラック・パーティーへの参加等を通して、レピーターの日本への紹介などにも尽力しました。当時、色々と指導してくれた MAARC の WB2SGA Bill とは今も連絡を取り合っております。また、NY での思い出として皆さんが挙げられるのが 4U1UN の運用です。私も例にもれず、もっとも心に残る運用のひとつです。4U35UN や 4U40UN などの記念局まで同席させて頂いて、幸せいっぱいでした。滞米中、JANET のメンバーの方々にはもちろん、XYL の皆様にもそれはそれはお世話になりました。長男が生まれたものですから、紙おむつやミルクまでお店を教えて頂き、ある時は 2 m で現地まで案内してもらったことも何度もありました。



写真 16. NBC スタジオでのミーティング。(右) ポットラック・パーティー風景。

日本へ帰国してからは、奈良のローカルのクラブを中心とした活動になりましたが、一方で CQ 誌の「JANET News」の記事の編集も 5 年間させて頂きました。亡き父 JM3CRW にも協力してもらって、なんとか重責をこなすことができました。その甲斐有ってか、1990 年には JANET CLUB からプラーク (表彰盾) まで頂き感動しました。いまも大切な宝物としてシャックに飾ってあります。子供 2 人も、小学生になると HAM に興味を持ってくれ、それぞれ免許を取得して特にキャンプ移動の時などに活躍してくれました。父の JM3CRW も含めて、これで「親子三代のハム」という事で、毎日新聞などで記事に取り上げてくれたことも良い思い出です。ハムの世界もデジタル化が進み、PSK31、SSTV などが盛んになると、もともと RTTY のような文字通信が好きだったこと、もう一つの趣味であるパソコンとの融合を満喫できることなどから一時期夢中になり、それが今も FT8 の運用に細々とではありますが、なんとか続いております。パソコンといえば、5 年ほど前にそれまでの勉強の成果を試してみようと、NTT コミュニケーションズの .com Master のテストを受け、なんとか Advance クラスをパスできました。これを足掛かりに近所のお年寄りたちのパソコンやスマホなどのメンテナンスのお手伝いをしたり、買い替えの相談にのったり、あるいは自治会や防災会、個人事業主の方々のホームページの作成や面倒を見させてもらったりしております。幼稚園、そして小中高の PTA の役をはじめ、地区の自治会、防災会の仕事など、現役の頃は全く放ったらかしであった、地域の方々との交流も積極的に行って、なんとか面目を保っています。(2021 年 3 月記)

NARA JAPAN *Confirming Our QSO.*

JM3CRW **JJ3IWG**
 JG3STV **JM3HZB**
 JM3KHY **N2CAO (NY)**

DATE			JST/UTC	TO RADIO	RST	2WAY	MHz	QSL
Day	Month	Year						PSE
								TNX
RIG							INPUT	W
ANT								mH
RMKS								

Tosio Masa Sumiko Shin Aya Hattori
 200-221, Nakamachi, Kashihara, Nara 634, Japan

写真 17. (左) 親子 3 代ハムの QSL カード。(右) 地域貢献として自治会館でのレコード鑑賞会。